

平成14年度 生物学若手研究者の集い

夏のセミナー報告記

木下 浩

平成14年度の生物学若手研究者の集い・夏のセミナーは、7月19日から20日にかけて9名の講師を含む総勢90名の参加者により、大阪の舞洲にあるロッジ舞洲にて開催されました。参加者は大学教官・ポスドクを含めた一般が32名、学生が58名でした。夏休み期間に入っただけのこともあり、参加申込みの出足が鈍かったものの、多くの関係者のご協力により上記のように例年通り多数の参加者を迎えることができました。

本年度のセミナーは講演に重点を置き、初日、2日目とも3題ずつと多くの講演を計画いたしました。企業に所属されている2名を含む演者の先生方には幅広い研究分野について講演を賜り、多くの知識、発見を得る有意義なセミナーとなりました。

朝日先生は大阪大学理学部教授としてご活躍のかたわらで武田薬品工業のリサーチマネージャーとしてもご勤務なさっており、企業の立場として薬品が世に出るまでのプロセス、その際の留意点を非常に分かり易く解説していただきました。近畿大学の松田先生は薬物の構造機能相関の研究を専門とされていますが、今回はアリゾクから毒物を単離する仕事について研究材料の取得にまつわご苦労も含めて、ともすれば忘れがちな研究の楽しさを思い出させてくれるような面白いお話しをしていただきました。帯広畜産大学の堀内先生は、波及の

問題がまだまだ出てきているBSE（牛海綿状脳症）に関して、BSEを迅速に診断するための抗体法についてのお話しを最新の研究の進捗状況も含めてご講演いただきました。初日の後半は“ポスト移動について考える企画講演”として、ポストの任期制が進められている現状や今後ますます盛んになる研究者のポスト移動および“ポストクローナ化計画”後の就職活動などについて、オフレコの内容を含みつつも、興味深い講演を戴きました。参加していた多くの若手研究者も今後のポスト選びについて非常に参考になった点が多いものと思います。

初日の講演終了後は施設内のレストランで懇親会が催されました。ドリンクは飲み放題だったのですが、食事が予想より少なく配慮が足りなかったと反省しております。この段階でずいぶん良い調子となった方々もおられたようですが、引き続いて例年通りテーマ討論会の名の下、深夜にまでおよぶ二次会が行われました。ここでも朝日先生は企業における研究者の生活、研究活動について、多くのユーモアを交えてお話し下さり、参加者と楽しく交流を深めていただきました。その後も参加者皆様がお酒を楽しみつつ（大きな問題も起こさず）親交を深めていただけたようです。

2日目はお酒が残っている方々もおられたようですが、3名の講師に講演を賜りました。奇しくも3先生方とも新規な手法を用いた研究についてお話ししていただいたため、参加した方々がこれらの手法を応用して今後の研究に生かせるのではないかと期待しております。大阪大学の梶山先生はレーザを用いた植物の形質転換法、タカラバイオ㈱の峰野先生はDNAマイクロビーズを用いたトランスクリプトーム解析、京都大学の栗原先生にはMASSを用いた酵素反応メカニズムの解析法についてご講演いただきました。いずれも最先端の手法であるため、実際的な実験手法にも踏み込んだ鋭い質問がなされ、多くの方の興味をひいたようでした。

回収したアンケートの結果から講演には皆様大変満足されたようで準備を行った我々も喜んでおります。一方、今回は時間の関係上行いませんでした研究室紹介を求める方もおられ、多様なセミナーという点ではもう一工夫必要だったかと反省しております。

最後になりましたが本セミナーを開催するにあたりご支援を賜りました日本生物工学会、御協賛を賜りました企業各社、ならびに本セミナー運営に関わられた方々に厚く御礼申し上げます。次回のセミナーは広島大学の先生方が中心となって開催される予定です。どうぞ、今後とも変わらぬご支援のほど宜しくお願い申し上げます。



講演の風景